

しなどです。そのうちに必ず子どもの方から声をかけてきます。「先生、手伝おうか？」と。

(2) 初めの子を大事にする。

最初に声をかけてきた子どもを見逃さないようにします。さっそく係第1号に指定するのです。指定するだけではいけません。仕事の名前とその子どもの名前をカードに書いて、掲示板に貼るのです。もう、その子どもは得意満面になるはずです。

(3) まず気づいたことを認める。

以前、係と当番は根本的に違うものであると述べました。しかし、この時期の子どもにはそんなことは関係ありません。ただ、先生の手伝いが大っぴらにできることが嬉しいのです。ですから、子どもが見つめてきたものはどんなものでも認めてほしいと思います。決して「それは日直さんにやってもらおうね」などと言わないようにしたいものです。

(4) 消極的な子どもに声をかける。

積極的な子どもというのは、きっかけさえつかめれば、あとは自分からいろんな仕事を探してきます。そこで教師は消極的な子どもに声をかけるべきです。「先生のお手伝いをしてくれるかなあ」などと言いながら近づいてみてください。

2 学級通信を考える～その16：書籍や新聞を紹介する

山口市立平川小学校 梶田崇晴

学級通信を出すねらいの一つに、教育の意味について保護者に理解してもらおうということがあげられます。

そのために、自分が読んだ本の中で、ぜひ親に知ってもらいたいものがあれば、通信で紹介するといいたと思います。

1冊まるごと紹介するのもいいし、ある部分だけを引用して紹介してもいいと思います。

私など有名な大学の先生が言われていると、「これは正しい」と思い込んでしまうクセがあります。これって、きっと保護者も同じだろうと決めつけて書き始めたのがきっかけです。

例えば、「作文の練習が大切だ」ということを理解してもらうために、「作文を書くことが基礎学力のもとになっている」というようなことが書かれている書籍の一部を紹介するのです。

最近、性能のいいスキャナーができたため、新聞記事や本の部分でも簡単に載せることができるようになりました。表紙を写真に撮って紹介してもいいですね。

その場合には、考えてもらいたいことなどをコメントとして書いておく方がいいようです。親から返事がくればラッキーです。もちろん、すぐ学級通信に載せちゃいます。

3 中国学級活動ネットワークin米子 報告10～調査官の話その6

今回は、特別活動の実践を広げるに当たってどういうことに気をつけるべきかについてお話されたところを紹介します。

特別活動は、今度の改訂で、道徳的実践の指導の充実を図るという観点から変えようとしているのだそうです。特活は道徳的実践の場としての役割をきちんとやってみようということ。特に、自分と他者に関わる場所、その実践の場を特活がやるんですと言われていたのだそうです。実は今まで道徳の実践の場というものをあまり意識せずにやってきただけで、実は今までもやっていたんだというのが、調査官の意見でした。そして、特別活動の実践を広げるために、例えば「特別活動という名前を変える」ということも挙げられました。やられていないものをいくら大事だと言っても意味がないですからね。学級会がほとんどやられていない現状で「学級会をやった方がいい」と何十回唱えてもだめ、学習指導要領に何回書いてもだめだと言われていました。そうしないと、今の特活のよさは広がらないということでした。先生方の関心がないので、それくらい難しいということでした。特に「人間関係を形成する力、社会に参画する力や自治的能力の育成を重視する」というのをはっきり特活の目標にし、小学校では低・中・高学年ごとに内容を示そうかということになってきているということです。こういう時に、例えば構成的グループエンカウンターで何かできるかということも考えてみたいということでした。35時間しかない中で、学級活動の(1)で自治的能力と社会参加の能力をやるわけだから、バランスを取ってやるとすると、人間関係だけやるとしても、せいぜい3時間から5時間でないといけないということです。今、中学校で荒れるのを小学校5・6年の責任だと考えるべきだと言われていました。特に今は、正直だとか真面目が攻撃の対象になっているので、小学校のそういう根のところの部分で5・6年生でどうするかということは、極めて重要な問題だということです。それに効果が上げられないというのであれば、特活はいらないということになるということです。特活の主たる目標は人間関係や社会参画であるというのであれば、やらなくてははいけない。しかし、学級活動の35時間でできるかということ、かなり無理があるということ、日々の生活の指導まで含めてやらないと特活はできない、だから「学級経営まると特別活動」だと言われておられるのだそうです。特活には見えない授業時間がいっぱいあるということ意識して取り組んでいくことが大切だということでした。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第35号は6月中旬ごろ発行予定です。

次号は、「係活動」について第6弾をお送りする予定です。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は160名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

6月は梅雨の時期。そこで、室内でできる簡単なイベントについて情報交換したいと思っています。簡単な準備でできるイベントを紹介してください。

本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ

8月頃 子どもとのつながりを考える

9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み

10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて

11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり

12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり

1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす

2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ

3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴 (山口市立平川小)

津村元文 (防府市立西浦小)

能勢雅子 (山陽小野田市立高千帆小)

吉田哲朗 (山口大学附属山口小)

=====